allcinema

女相続人（1949）

THE HEIRESS

メディア 映画
ジャンル ドラマ　ロマンス
製作国　アメリカ
色彩　B&W
時間　115分
初公開日 1950/11/21
公開情報 セントラル

【解説】

いったい女性がこの作品を見てどんな感想を抱くのかがまず気になった。それほど本作には、もてない余りに意地悪くなった女の心情を余す所なく語って、世の独身男性の心胆寒からしめるものがあるのだ。原作をＨ・ジェームズの中篇『ワシントン広場』に仰いだ、ゲッツ夫妻の戯曲の映画化（脚本も彼ら）で、アカデミー主演賞を得たデ・ハヴィランドの芝居－－前半の慎しい行かず後家の哀愁と、後半の父の愛情も疑って人間不信に陥った傑女の演じ分け－－は凄じい。１８５０年頃、ＮＹの高級住宅地に邸を構える医師スロッパー（リチャードソン）は無器量で社交的でない一人娘キャスリンの行く末を案じていたが、彼女を家事や刺繍に閉じ篭らせていたのは、彼が断ち難い想いのあまり亡妻を理想化し、そのイメージを彼女に押しつけていたせいもあった。牧師の夫を失い、兄スロッパーを頼って居候するラヴァニア（可愛らしさは不変のホプキンス）は社交好きで、姪に異性と知り合うチャンスを作ろうとする。彼女の計らいで出会った青年モーリス（クリフト）はキャスリンに興味を示し、舞踏会用の手帳のパートナー欄に立て続けに彼女の名を記す。このシークエンスでのデ・ハヴィランドの悲喜こもごもの表情の変化は絶妙で、観客は彼女の幸福を望まずにはいられぬ気持ちにさせられるが、誠実に見えるモーリスは、果して、父の言うように財産目当ての輩かも知れず、ここで映画的なサスペンスが生まれる。彼の誠意を信じて、父とヨーロッパ旅行に向かったキャスリンは帰国して、待ち受けるモーリスと駆け落ちを誓うのだが、怖気づいた彼は約束の時間に現われず、以来、すっかり心を閉ざしてしまう。数年後、父の死に際も看取らない氷の女のもとへモーリスが戻る。彼女は彼の甘言を受け入れたように見せ、一旦帰って再訪する彼に屋敷の扉を堅く閉ざしたままだった……。

【クレジット】

監督	ウィリアム・ワイラー	William Wyler	
製作	ウィリアム・ワイラー	William Wyler	
原作	ヘンリー・ジェームズ	Henry James	
脚本	ルース・ゲイツ	Ruth Goetz	
	オーガスタ・ゲイツ	Augustus Goetz	
撮影	レオ・トーヴァー	Leo Tover	
特殊効果	ゴードン・ジェニングス	Gordon Jennings	
編集	ウィリアム・ホーンベック	William Hornbeck	
音楽	アーロン・コプランド	Aaron Copland	
出演	オリヴィア・デ・ハヴィランド	Olivia De Havilland	キャサリン・スローパー
	モンゴメリー・クリフト	Montgomery Clift	モリス・タウンゼント
	ラルフ・リチャードソン	Ralph Richardson	Ｄｒ．.オースティン・スローパー
	モナ・フリーマン	Mona Freeman	マリアン・アルマンド
	ミリアム・ホプキンス	Miriam Hopkins	ラヴィニア・ペニマン

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

ヴァネッサ・ブラウン	Vanessa Brown	マライア
レイ・コリンズ	Ray Collins	ジェファーソン・アルマンド
セレナ・ロイル	Selena Royle	エリザベス・アルマンド
ベティ・リンレイ	Betty Linley	モンゴメリー夫人

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.